

「夢中」20209

何のトリエもないけど「夢中」になる才能だけはあるみたい…。

職人的な映画編集者だった父親ゆずりかもしれない。編集は「夢中」にならないと出来ないからね。母親もある意味「夢中」の人だった…ポンヤリ「夢の中」というようだったから。

「夢中」な二人から生まれ出て、気がついたら私も「夢中」だけがトリエになっていたんだ。

正月だろうとGWだろうとお盆だろうと、年中無休で「夢中」で仕事してる。休みたいなんて思わない…。まわりは迷惑に違いない。「働き方改革」とか「ステイホーム」だ「テレワーク」だと言われてる今の時代に、まったくそぐわない。

もう先行き長くはないだろうから、このまま疾走してクタバルんだ。それでいい…。まわりのみんなには、赦してください、だ。

疾走は、失走になることもあるから数々の失走を繰り返す人生だったと思う。同じような失敗を何度となく犯した…。「失敗から学べ」と聞いたふうなことを言う奴もいるけど、そんなにクレバーじゃないから。目を瞑って突っ走ってるわけだから、何も見えてないんだ。

自分のことが見えてたら世話ない…

自分のことは、自分が一番よくわかっていないのだから。

自分のことがわかっているような奴が創った映画は、面白くも何ともないと思うけど、わからなくてわからなくて、わからないから、映画を創るのだ。

少し長く生きたら、もっと世の中のことや自分のことがよくわかるようになると思ってたけど、ますますわからなくなる。

そして、ますます「夢中」になるんだ。もがくように「夢中」をサマヨウ…無我夢中。

今、芝居をやってる娘から、「お父さんはなんで映画の仕事をやるようになったの？」と、聞かれたことがある。けっこうマジな顔をして聞かれたので、マジに応えなきゃと思い、一瞬考えて「多分、夢中になりたかったんだ…」と言った覚えがある。娘はキョトンとした顔をしていた。

その娘は今、芝居に「夢中」だ。息子もいつの間にか映像の仕事をやるようになり、今はまぎれもなく「夢中」だ。

「夢中」は伝染するのかもしれない。

「夢中」になるのがいいとか悪いとかではなく、「夢中」にならないわけにいかない性分というか…しょうがないんだ。

この春以来のコロナ禍…「存亡の危機」をどう乗り越えるのか？

どうしていいかわカラナイ、というのが正直なところだが、今まで通り目を瞑って突っ走るしかないのだと思う。

「夢中」になって…

「コロナ禍」以来の自粛モードで人影の少ない街中に行く…

生きているのかいないのか、

「みんなホントでみんなウソみたいだ」

「夢中」だけが頼りだ。

そんなふうに思いながら歩く、汗をふく。